



映画「小学校～それは小さな社会」がいくつかの映画館で上映中です。東京都世田谷区の小学校の21年度1年間をドキュメンタリーにした作品。この映画は、大阪の公立小学校卒業後、インターナショナルスクールからアメリカの大学に進学した山崎エマ監督が、自らをふり返り「6歳児は世界のどこでも同じようだけれど、12歳になる頃には、日本の子どもは“日本人”になっている。すなわちそれは、小学校が鍵になっているのではないか」との思いから出発しています。映画の中で、職員研修の講師の大学教授が、日本の学校教育は、教科だけでなく「生活」を教育する世界でも稀なものであること、学校はかつて軍国主義教育を行ったが、その反省から今の学校は民主主義を育むものとなっていること、そして、日本の教育が求める集団性の強さと協調性、それは諸外国が見習いたいと思っているものだが、いいことばかりではなく、もろ刃の剣であることを語っています。映画の短縮版である「Instruments of a Beating Heart」は、アカデミー短編映画賞にもノミネートされ、YouTubeでも見ることができます。ちょっとチェックしてみませんか。

総研セミナーを開催しました！



2月15日に、北九州市小倉で「授業を拓く」68集にもとづく平和教育フィールドワークを開催しました。北九州平和教育分科会のみなさんの案内で平和のまちミュージアム見学からスタートし、小倉造兵廠に関わる戦跡を巡りました。



空襲犠牲者慰霊碑のある永照寺では、住職から



ひょうがむよう「兵戈無用」、武器も武力も用いることのない平和についてのお話もありました。参加者交流も行い、講師作成パンフレットのお土産もいただき、半日

でしたが学びの多いFWとなりました。

新学習指導要領にむけ、中教審の議論スタート！

学習指導要領の全面改訂にむけ12月25日に文科大臣から中央教育審議会教育課程企画特別部会に諮問され、1月に議論が始まりました。部会では26年度中の答申をめざします。方針等は25年秋までに取りまとめる予定で、パブコメの実施も想定されます。諮問では、「(顕在化している諸課題に向き合うことは)我が国の社会及び教育の積年の課題でもある『正解主義』や『同調圧力』への偏りから脱却するとともに、民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ、社会の分断や格差の拡大を防ぎ、共生社会を実現する観点からも極めて重要」等の認識も示されましたが、今後議論の動向には注意が必要です。